

まち＊ほん

田原市生涯読書振興計画

～誰もが自然に読書に親しめるまち～

令和3年度～令和7年度



令和3年3月

田原市図書館

目次

第1章 計画の概要	1
1 計画の目的	1
2 計画の位置づけ	1
3 国の法令との関係	1
4 計画の期間	2
5 計画の策定体制	2
第2章 前計画の取組みに対する評価・課題	2
1 前計画の取組みに対する評価	2
2 前計画の課題	3
第3章 基本理念・基本方針	4
1 基本理念	4
2 基本方針	4
I 生涯にわたる読書振興	4
II 子どもの読書環境の整備	5
III ふるさと教育を軸にした文化創造と地域活性化	6
IV 地域の情報と交流の拠点づくり	7
V 連携・協働による図書館活動の拡充	8
第4章 施策体系（ロジックモデル）表	9
第5章 計画の進行管理体制	9

第1章 計画の概要

1 計画の目的

「まち＊ほん生涯読書振興計画（平成27年度～令和2年度 以下、「前計画」といいます。）は、「第二次田原市子ども読書活動推進計画」を発展的に引き継ぎ、子どもに限らず、誰もが自主的に読書活動を行うことができるように、その読書環境を整備するための指針として平成27年に策定しました。その後、田原市では教育の主要な柱として位置付けるふるさと教育を充実させるために、平成31年1月に「ふるさと教育取り組み指針」を策定、令和元年10月にはふるさと教育センターが開設されました。このように、ふるさと教育を軸とした地域づくりを目指す中、前計画の計画期間の終了を迎えることに加え、人口減少、少子高齢化、急速な情報化、ライフスタイルや価値観の多様化、新型コロナウイルス対策や新しい生活様式への対応など、社会情勢の急速な変化や社会を取り巻く新たな課題へ対応しながら、読書振興をさらに進めるために計画を改定するものです。

2 計画の位置付け

本計画は、「田原市総合計画」や「教育大綱・教育振興基本計画」を上位計画とする個別計画として位置付け、上位計画の方向性等を踏まえ、生涯読書を推進するための考え方・体系を明らかにするものです。さらに関連する他の個別計画との連携を図ります。

3 国の法令との関係

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」及び「文字・活字文化振興法」にもとづき策定するものであり、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項に定められた「市町村子ども読書活動推進計画」を兼ねるものです。

4 計画の期間

本計画の期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間とします。

5 計画の策定体制

本計画の策定に際しては、図書館法にもとづき田原市図書館条例により設置されている田原市図書館協議会において検討が行われ、教育委員会定例会、総合教育会議へ報告を行い、それに対する各委員等からの意見を踏まえ策定を行いました。

第2章 前計画の取組みに対する評価・課題

1 前計画の取組みに対する評価

前計画では、計画全体に関する評価指標として、田原市図書館の資料貸出点数に加え、1年間、本を読まない人が田原市の人口に占める率(不読率)を設定しました。田原市図書館の令和元年度の資料貸出点数は約67万6千点で、田原市人口一人当たりの貸出点数(貸出密度)は10.98点でした。また、年に1回でも借りた人数が田原市の全人口に占める比率(実利用率)は15.9%でした。貸出密度については全国平均が5.2点[°]であり、田原市はきわめて高い水準にありますが、貸出点数は毎年微減し、貸出密度と実利用率は前計画で設定した目標値を達成することができませんでした。スマートフォンの保有率増加などによるライフスタイルの変化や、隣接する豊橋市に新しい図書館が開館したこと、また、資料費減少による影響等が考えられます。一方、令和2年度の不読率については小学生が5%、中学生が6%となり、1年間本を1冊も読まなかった児童や生徒の数が減少しました。学校での朝の読書活動の定着や小学校を巡回する移動図書館車での貸出点数の増加とも相関する結果となりました。

[°] 「社会教育調査－平成30年度結果の概要」文部科学省より

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/kekka/k_detail/1419659.htm

表 1 前計画における目標値とその達成状況

	平成27年度	目標値	令和2年度	達成状況
貸出密度 (田原市人口 一人当たりの 貸出点数)	13.67点(平25) ^b	14.00点	10.98点(令1) ^c	×(未達成)
実利用率	19.2%(平25) ^b	20.0%	15.9%(令1) ^c	×(未達成)
不読率	小学生 9%(平26) ^d 中学生 8%(平26) ^d 成人 19%(平23) ^e	減少	小学生 5%(令2) ^f 中学生 6%(令2) ^f 成人 - ^g	○(改善)

2 前計画の課題

人口減少や厳しい財政状況、変化の激しい社会状況の中で、従来型の評価指標である貸出冊数や来館者数のみを目標とすることは、施策の効果を正しく評価するには充分ではありません。限られた財源による、より効率的で効果的な運営を行いながら、多様化するニーズに応え、社会課題の解決に寄与していくことが求められる時代においては、図書館サービスの効果やそれによる人々の変化等を検証することができる定量・定性的な評価指標や、利用者や関係者による参加型評価等も用いて、事業の実施によってどの程度の効果があったのかをデータで検証する必要があります。そして、その結果をもとにしたエビデンスに基づく施策を立案^hし、事業を実行し、評価と改善を行うPDCAⁱサイクルを推進させながら基本理念の実現に近づけていくことを本計画では目指します。

^b 『田原市の図書館 図書館事業年報(平成25年度)』田原市図書館(平成26年6月)より

^c 『田原市の図書館 図書館事業年報(令和元年度)』田原市図書館(令和2年6月)より

^d 『読書アンケート』(平成27年度実施)より

^e 『田原市民の読書と図書館への期待—子育て世代へのアンケート調査から—』椋山女学園大学文化情報学部司書課程研究室(平成24年3月)より

^f 『読書・図書館に関するアンケート』(令和3年2月実施・市内小学4年生と中学2年生対象)より

^g 成人の不読率については平成23年度以降未調査

^h EBPM: Evidence-Based Policy Making (証拠に基づく政策立案)

ⁱ PDCA: Plan (計画)、Do (実行)、Check (点検・評価)、Action (改善)

第3章 基本理念・基本方針

1 基本理念

計画のめざす基本理念は「誰もが自然に読書に親しめるまち」です。

近年、日本人の読書離れが進んでいるといわれますが、人々が、自らの豊かな知性と感性を育て、人間や社会や自然を理解し、自立した暮らしを営むために、読書の重要性は、年代を問わずますます高まっているのではないのでしょうか。市民一人ひとりが読むことを通じ、さまざまな事実や意見を比べながら、じっくり考えて物事を判断する能力と習慣を養うことは、民主的な社会の前提でもあります。読書の習慣は自分で考え行動する習慣につながり、本をめぐる語らいは人と人の心をつなぎます。読書は人の「自立」と「つながり」の両方に役立ちます。それゆえに、読書は生涯にわたる発達に欠かせない活動でもあります。子どもの読書は大人の読書の基礎であると同時に、読書する大人がまちじゅうにいることこそが子どもの読書にとって最良の環境です。

また、本計画の愛称である「まち＊ほん」は、「まち」と「ほん」を掛け合わせていることを表し、“マチホン”と読みます。本がまち全体に行き渡り、読書とまちづくりが互いに影響し合うことにより、両方が飛躍的に発展してほしいという願いをこの愛称にこめています。

2 基本方針

I 生涯にわたる読書振興

- ・乳幼児から高齢者まで全生涯にわたって読書ができる環境を整備します。学びや楽しみのための読書だけでなく、暮らしや仕事に役立つ資料や、地域の課題解決に必要な資料や情報を提供します。また、紙に印刷された書物だけでなく、視聴覚資料の充実や来館せずに利用できる電子書籍の提供も目指します。
- ・障害者や高齢者など、図書館へ来館することが困難である人の情報収集や学ぶ機会を提供します。音声資料や大活字資料などその人に合った媒体の資料を提供します。
- ・いつ来ても新しい情報が入手でき、知的好奇心を喚起するような魅力的な棚づくりを行い、テーマ展示やブックリストなどの読書案内ツールを充実さ

せませす。また、いつでも気軽にレファレンスサービス^じを利用でき、生活や仕事、まちづくりに活かすことのできる情報を効率的に入手できるよう、調べものに役立つ資料を収集し、職員の専門的知識や技能を向上させませす。

<主な施策と評価指標>

施策	評価指標	令和元年度 実績	令和7年度 目標値
1-1-3 レファレンスサービスの充実	レファレンス件数	115 件	150 件
1-2-2 高齢者サービスの充実と利用促進	元気はいたつ便 ^き 訪問サービス利用者数・施設職員満足度	913 人 —	利用者数維持 満足度向上

II 子どもの読書環境の整備

- ・子どもの読書推進には学校との連携が欠かせませせん。移動図書館車による全小学校への巡回事業は貸出冊数が増加傾向にあり、活発に利用され、子どもの読書活動の主軸となつています。今後も移動図書館車をはじめ、様々な配送手段で学校への図書配送を行いつながら、学校司書や教員の支援も充実させていきます。



移動図書館いづみ号巡回の様子

^じ 調査相談業務。調べもののお手伝いを行い、文献紹介等を行います

^き 高齢者福祉施設等へ職員とボランティアが出向き、回想法やレクリエーション等を行うサービス

- ・市内の小中学校のICT¹化が急速に進みつつありますが、学校図書館の電算化が行われている学校は少数にとどまっています。市内全ての学校図書館の電算化と図書館とのネットワーク化を目指します。
- ・ブックスタート²の実施やおはなし会を始めとする児童サービスを充実させ、子どもの読書習慣が身に付くよう各関係機関との連携・協力を行い、活動を推進します。

<主な施策と評価指標>

施策	評価指標	令和元年度 実績	令和7年度 目標値
2-1-1 学校へのレファレンス、団体貸出、司書やボランティアによるブックトーク ³ 、読み聞かせ等の実施	不読率	小学生 5% ⁴ 中学生 6% ⁴	減少
	読書が好きと回答した児童・生徒の割合	小学生 85% ⁵ 中学生 79% ⁵	増加
2-1-2 移動図書館巡回、配送便による資料提供	移動図書館貸出数	95,790 点	維持
2-3-2 保育園、こども園等における読書環境の向上	児童福祉施設・団体等に出向いたおはなし会の実施	17 回	20 回

Ⅲ ふるさと教育を軸にした文化創造と地域活性化

「ふるさと」とは、生まれ育った土地でなくても、住んでいる土地に好感や愛着があれば「ふるさと」として、心のよりどころや、世界を知るための基準（ものさし）となります。「ふるさと教育」とは、地域の教育資源や、それらに関する資料を教材として、ふるさとに関する知識を広げ、認識を深める学習と、それを支援するための活動です。図書館では、ふるさ

¹ ICT (Information and Communication Technology) 情報通信技術

² 乳幼児健診時に、図書館職員とボランティアが絵本等を手渡し、絵本に触れあう楽しさを伝える事業

³ テーマにそって何冊かの本を順序だてて紹介するサービス

⁴ 『読書・図書館に関するアンケート』（令和3年2月実施・市内小学4年生と中学2年生対象）より、1年間に1冊も本を読まなかった児童、生徒の割合

⁵ 『読書・図書館に関するアンケート』（令和3年2月実施・市内小学4年生と中学2年生対象）より、「読書は好きですか」という質問に「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童、生徒の割合

と教育を進めるために地域資料を充実させ、田原のことは図書館に来れば全てわかる状態を目指します。また、地域資料のデジタルアーカイブ⁹化やオープンデータ¹⁰化を進め、誰もが地域の資料を利用しやすい環境を構築します。また、人々がふるさとについて学び、発信する機会を提供します。

<主な施策と評価指標>

施策	評価指標	令和元年度 実績	令和7年度 目標値
3-1-2 デジタルアーカイブ、 オープンデータ公開、新聞記事 見出しデータベースの充実	デジタルアーカイブ 公開件数	7件	20件

IV 地域の情報と交流の拠点づくり

- ・図書館を地域における情報と交流の拠点として、施設の魅力を高め、他の教育文化施設とのネットワーク化や複合化による相乗効果を高めていきます。赤羽根図書館については社会教育施設個別施設計画にもとづき、施設の複合化を目指して検討を進めていきます。
- ・人がつながり、地域の課題解決の場となる機会を提供します。また、多文化や多様性、少数派（マイノリティ）の人たちを理解するための資料の提供を行い、共生社会を実現するための講習会やワークショップ等を実施します。



「図書館で議員と語ろうホリデー」令和元年8月4日実施

⁹ デジタルアーカイブ：図書館や博物館の資料を含めた文化資源等をデジタル化して記録保存を行うこと

¹⁰ オープンデータ：二次利用が可能な利用ルールで公開されたデータのこと

- ・ICTを使いこなす市民を増やし、新たな価値を生み出す活動を支援するため、館内の環境を整備し、講座等を実施します。豊橋技術科学大学等との連携により、最新のテクノロジーに触れ、学ぶ機会を提供します。

<主な施策と評価指標>

施策	評価指標	令和元年度実績	令和7年度目標値
4-2-1人がつながり、地域の課題解決の場となる機会の提供	ワークショップ等イベント開催	「図書館で議員と語ろうホリデー」開催	継続・発展

V 連携・協働による図書館活動の拡充

- ・田原市図書館はその成り立ちの時から市民とともにつくられ、今に至るまで市民との協働によって運営しています。おはなし会や元気はいたつ便、音訳[§]、ブックスタート、リサイクルブックオフィス[†]など、図書館の事業に市民のサポートを欠かすことはできません。サービスを維持向上させるために、市民や団体、企業等との連携・協働をいっそう進めていきます。



リサイクルブックオフィス

- ・資料費等の減少を補うため、令和2年度から開始した雑誌スポンサー制度をはじめとした財源獲得（ファンドレイジング）への取組みを進めま

[§] 視覚に障害のある人が本などの内容を理解できるように、文字や図表を音声化すること

[†] ボランティアが図書館の除籍本や寄贈本を販売し、売り上げから大活字本等を図書館へ寄贈する事業

す。また、広く図書館活動を応援してもらえる支援者（ファン）を増やしていきます。

- ・生涯にわたる読書活動のPRするためのイベント等の実施やSNS⁴等を活用して情報発信力を強化します。

<主な施策と評価指標>

施策	評価指標	令和元年度 実績	令和7年度 目標値
5-2-2 図書館の認知度 向上	メディア掲載件数	17件	25件

第4章 施策体系（ロジックモデル）表

別紙

第5章 計画の進行管理体制

本計画は、今後5年間の田原市図書館の取組の方向性とアクションプランを示すものです。各年度の取組内容や具体的な評価指標、数値目標に関しては、新たな課題や社会状況の変化を踏まえて、1年毎の事業計画を作成し具体化を図るとともに、毎年その達成状況に対して評価を行い、施策のPDCAサイクルを実施します。

また、事業計画の内容やその評価については、図書館協議会において提言をいただくとともに、利用者アンケートや児童・生徒を対象とした読書アンケートをはじめとした様々な評価手法を活用し、事業計画へ反映していきます。

⁴ SNS：twitter、facebook、Line、Instagramなどのソーシャルネットワーキングサービス

まち＊ほん
田原市生涯読書振興計画
令和3年度～令和7年度

編集・発行 田原市図書館
〒441-3421 愛知県田原市田原町汐見5番地
田原市中央図書館
TEL:0531-23-4946/FAX:0531-23-4646
URL:[http://www2.city.tahara.aichi.jp/section/
library/](http://www2.city.tahara.aichi.jp/section/library/)
発行年月 令和3年3月